

新入生の皆さんへ

井 貞 田 順 基礎学部長

理学部長 菅 原 正 博

新入生の皆さんおめでとう。理学部の教官の一人として、心から歓迎いたします。

皆さんは今から大学生としての生活を始めるわけですが、大学を志望してそこへ入学したことの意味を、改めて考えてほしい。そして自分なりの夢と希望をより明確なものとして下さい。そしてそれぞれの学問を学ぶことをとおして、より健全に、より能動的に、より有意義に、4年間の大学生活を送ってほしい、と切に願うものです。

ところで、理学は自然の理、すなわち自然界の事実やことわり、を学ぶ学問です。科学の原点であり、理論的な基礎です。その理学への道は、自然を直視して「何故か」と考えた多くの先達によって切り開かれ、開拓されて積み重ねられた遺産を基に、次第に視野をより多様なもの、より精密なものとしながら、さらに大いなる自然の普遍性を探し求めて、やはり「何故か」と考える個性によって引き継がれて行くであろう、永遠の未知なる真理への道なのでしょう。

理学部における学習の目的は、現代理学のある一分野をより正しく認識することです。そのためには、根幹を成している基礎的な考え方から学び始めます。その際に、すでに学んだと思っている高校における数学または理科の内容を、再確認しなければならない場合もあります。語学を含めて一般教育への意欲および関連する分野への意識も肝要でしょう。そして次第に、より高度な理学の遺産へと、学習を積み重ねて行くことになります。この積み重ねは、実験などにより事実を観る

ことのできる目を養い、論理的な推論により「何故か」と考えることのできる感覚を培い、そして普遍性を求める柔軟な物の考え方を身につける場でもあります。それは、創造へのより能動的な努力と意欲によって支えられるもので、座して得られるものではありません。

何にでも興味を見出せる柔軟な頭のトレーニングができるのは、皆さんのような若いときだけ、といつても過言ではないでしょう。理学には新しい認識を得る楽しさに加えて、新しい認識を開拓する楽しさがありますが、それは試行錯誤を繰り返すことのできる感覚によって体験できるものでしょう。理学部へ入学したことの意味を考えてほしいと申しましたが、これから折にふれて、理学部に在学していることの意味を考えてほしい。その答のようなものが、理学への認識が深まるにつれて、折々に変わって行ってほしい、とも思います。

やがて皆さんが理学部卒業生となるであろうとき、社会は皆さんの現代理学の知識だけではなしに、学問の基礎を学ぶことによって培われた感覚と物の考え方にも大いに期待するでしょう。また皆さんは、成人を迎える2年後から、西条の新キャンパスの理学部で学生時代を過ごすことになりますが、移転は新たな活力を創り出すきっかけともなりましょう。皆さんは、自然の理を思いきり学び、自分の可能性をとことん追求して下さい。